



BSIM（別府地熱学消化器美術館）

BSIM (solo exhibiton)  
platform 02  
大分県 別府市

Nov. 5 - 30  
2011

震災後、別府に滞在していた私は、東京に帰る予定が立たずに別府にしばらく駐留していた。滞在中方々で聞く地下壕の都市伝説は次第に姿をもちながらも、それは次第に姿になってゆき、私はその言葉によって人に会うようになっていった。

米軍進駐時代の遺産であると噂されるその地下空間は、私がかつての記憶と思い出へと導いて、戦後の苦しく辛い時間や、米軍進駐によって成長する経済の風景をも浮かび上がらせた。私は今は何もなかったのキャンプ地である別府公園を眺めながら、そこがその瞬間たちのグラン

ドゼロであるかのように思っていた。そして旧キャンプ地を中心に張り巡らされているという地下空間がその体内であるかの様に思えた時、その中を巡り別府の地熱や器官のシステムのままに彷徨いたいという思いに駆られていった。

私はその後、この地下壕がかつて造られた目的や理由から解放されていくようなサイクルを、美術館として改修してゆくことを発想する。空間にはなにも無く、ただ闇へと続く空洞に、内装が消化されては消えてゆく別府の体内への旅が広がる。

